

3. 誰もがいきいき暮らせる健康・医療・福祉の推進

(1) 健康づくりの促進

「八雲町健康増進計画」に基づき、健康づくりの主体である町民一人ひとりが、自分の健康状態に関心を持ち、具体的な取り組みができるよう、生活習慣病予防などの健康づくり教室や地区健康教室等を通じて、健康意識の高揚と知識の普及啓発に努めてまいります。

また、疾病の早期発見・早期治療や生活習慣病の予防・改善を行うことができるよう、町民ドックや特定健診、各種がん検診の受診勧奨を行うってまいります。特に、子宮頸がんおよび乳がん検診については、一定年齢の対象者へ無料クーポン券を配布して受診勧奨を行うとともに、胃がんおよび大腸がん検診と同様に特定健診に併せて実施する体制を確保することで、町民の利便性と受診率の向上を図ってまいります。

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種については、感染症のまん延を予防するため、町

内各医療機関の協力をいただきながら、円滑な接種が実施できるように努めてまいります。

(2) 医療体制の充実

八雲総合病院では、特に、新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての役割を果たすとともに、感染症対策と並行して、通常の医療提供体制を維持、確保してまいります。

医師確保では、内科および耳鼻咽喉科常勤医師確保の見通しとなったものの、脳神経外科医師が非常勤体制となつたため、引き続き、医師確保を最優先に対応してまいります。

令和元年度から2年間、経営改善のため導入した医療コンサルティングにより病棟機能の転換など抜本的な改革に取り組み、大きな成果を上げることができましたが、引き続き、各種施策の進行管理を適切に行い、経営健全化に努めてまいります。

今後とも地域センター病院として、町民の皆さまをはじめ、地域の皆さまに安心して受診していただける病院づくりを、院長と共に私が先頭に立ち、職員一丸となって進めてまいります。

熊石国保病院は、住み慣れた地域の中で安心して受診することができる「地域のかかりつけ病院」としての役割を果たしてはいますが、建物の老朽化が著しいことから、建て替えに向けた作業を進めているところであり、令和3年度は、実施設計に着手いたします。

今後においても、熊石地域における唯一の病院として、地域医療の確保と充実に努めてまいります。

(3) 地域福祉の促進

高齢者や障がいを持つ方が安心して健やかに暮らしていくためには、身近な地域の住民同士が、お互いを思いやり支え合っていくことが必要であることから、地域の絆を深めるための声掛けや見守りが推進されるよう、町内会や民生委員協議会等関係団体と連携を図りながら支援してまいります。

また、社会福祉協議会と連携を図り、ボランティア団体の各種活動や相談、人材確保の支援に努めてまいります。

(4) 高齢者福祉の推進

町の高齢化率は35%を超え、今後も高齢化の進展が見込まれる中、令和2年度に「八雲町高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」を策定し、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して健やかに暮らし続けられる地域社会を目指し、地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組んでまいります。

高齢者の生活を支えるため、住民主体の通いの場の創出と定着の支援、また地域での支え合いと高齢者の社会参加を進めることを目的とした、生活支援の担い手の養成による体制づくりについて検討してまいります。

さらに、高齢者の増加に伴い、認知症高齢者も増えてくることから予想されるため、認知症に対する普及啓発をはじめとした認知症施策を推進してまいります。

また、医療や介護サービスに繋がっていない方などに対する個別訪問や八雲町の健康課題を抽出し、運動・栄養・口腔ケア等フレイル予防に関わる健康教育・相談等を通いの場で実施するなど、きめ細やかな保健事業と介護予防を一体的に実施してまいります。

ます。

(5) 子ども・子育て支援の強化

子育てに関する相談窓口である子育て支援センターでは、育児相談をはじめ、子育てサークルの育成や交流事業、未就学児の一時預かり事業などを展開し、保護者に喜ばれる子育て支援の充実に努めるとともに、不登校やひきこもりの子どもと若者、その家族に対する支援のほか、児童虐待の早期発見と早期介入に努め、関係機関との連携により、児童が安全かつ健全に育成されるよう訪問・見守り活動を継続的に実施してまいります。

発達の遅れや障がいのある児童とその家族の支援にあたっては、子ども発達支援センターが中心となって、関係機関の協力を得ながら、発達相談や療育事業の充実に努め、児童の成長過程などにあわせた適切な支援をしてまいります。また、表面上わかりづらい発達障がいの特性を正しく理解していただくための講演会なども開催してまいります。